

I 実践

1 人権教育の目標

- (1) 自他の良さを認め合うなどの人権感覚を身に付けるとともに人権意識を育む。
- (2) 正しい見方、考え方、強い意志、豊かな心情をもった生徒を育て、励まし合い、助け合う人間関係を培う。

2 人権教育推進上の具体的課題

- ・一人一人が個人として尊重され、互いに認め合い励まし合える人間性豊かな学校づくりを推進する。
- ・異学年、小学校、地域との交流活動の充実に努める。

3 実践内容

(1) 朝のあいさつ運動の実施

生徒会役員と各委員会が、毎月、朝のあいさつ運動を実施しており、小学生や卒業生、教職員、地域の方々に大きな声で元気よく、あいさつをすることができている。11月の「いばらき教育月間」では、小中一貫校ならではの取組として、小学生とともにあいさつ運動活動を行っている。



【5月・あいさつ運動】



【11月・小中合同あいさつ運動】

(2) 人権教室の実施

地区の人権擁護委員2名による人権教室を11月に行った。DVD「いじめをなくすために、今」を視聴し、その内容をもとに1年生6名で話し合いをした。主人公の行動を追いながら、「どうすべきだったのか？自分ならどうするか？」について一人一人から積極的に意見が出された。また、生徒たちは委員の先生方の話真剣に耳を傾け、命の尊さや勇気をもつことの大切さについて学ぶことができた。



【話し合いの様子①】



【話し合いの様子②】

(3) 修学旅行先からの「修学旅行だより・友愛通信」の送付

修学旅行先から、中里地区で一人暮らしをしているお年寄りに、京都・奈良で購入した絵はがきを出す取組である。毎年、3年生の伝統として実施しており、お年寄りからの返信もたくさん届き、温かい心の交流を図ることができた。



【「修学旅行だより」の送付①】



【「修学旅行だより」の送付②】

(4) 特別活動推進事業における「ひまわり学園」訪問

第1学年の特別活動推進事業の活動の中で、本校は伝統的に「ひまわり学園」の利用者との交流を実施している。利用者の方の体育的活動（屋内・屋外）と一緒に参加したり、職員の方の話を聞いたりすることで、生徒たちの視野が広がり、心の成長が見られた。



【利用者の方と屋外活動を行っている様子】



【自己紹介の様子】

(5) 地区敬老会への参加

毎年9月上旬に行われる地区敬老会に参加し、代表の生徒が作文を発表した。また、卓球部は地域のお年寄りを席へ誘導したり、お茶を入れたりと会場係の手伝いを笑顔で行い、吹奏楽部は地域の楽団「きららバンド」とともに懐かしのメロディーを演奏し、楽しい一時を過ごした。



【会場係をする卓球部の生徒の様子】



【吹奏楽部と「きららバンド」の演奏】

4 成果

(1) 毎月実施しているあいさつ運動では、生徒と地域の方々がお互いに声を掛け合うことでよりよい人間関係を作る基盤となっている。また、一貫校として小中合同で行うことにより、9年間の縦のつながりが強くなり、大切な交流活動の一つとなった。

(2) 修学旅行での友愛通信や地区敬老会での取組では、郷土愛やお年寄りへの思いやりの気持ちを育むことができた。体験活動を通して、世代を超えた心の交流を図ったり、郷土の伝統芸能に触れたり、とても貴重な経験をすることができた。

(3) 人権教室では、擁護委員の方々からの講話に真剣に耳を傾け、命の重みと大切さ、勇気をもつことの大切さについて深く学ぶことができた。

～生徒からの感想の一部～

- ・何をするにも勇気を出して向き合うことが大切だと思った。
- ・死の重みや怖さについて改めて知った。軽々しく行動したり、友達や大切な人に「死ね、消えろ」などと言ったりしてはいけないと思った。
- ・いじめを見かけたら、勇気を出してやめさせないといけない。
- ・命は尊いもので、だれの命もそうなのだと学んだ。
- ・今回みんなで話し合ったことで、「いじめ」は絶対にいけないことで、絶対にやってはいけないと改めて思った。

II 今後の課題

日々の教育活動や学校行事を通して、よりよい人間関係の育成や、地域社会の一員としての自覚を再認識する実践に取り組むことができた。また、今年度は全校生徒が20名と、昨年より6名も減少する中で、生徒一人一人が意欲的に生き生きと活動する姿が見られた。しかし、自他を大切に感情の育成は時間がかかる。引き続き本校の人権教育の目標である「豊かな心情をもった生徒を育て、認め励まし合う豊かな人間関係」の醸成を目指し、日々じっくりと、学校生活全体を通して取り組んでいきたい。